



証券コード:7707

PSS 会社説明資料

2012年4月21日

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

www.pss.co.jp

Contents

I. 会社概要

II. PSSのめざす事業領域と施策 (技術、装置、展開)

III. 当期上期業績概況 (2011年7月～12月)

PSS会社概要



- 創立：1985年7月
- 2001年2月NASDAQ Japan上場(現JASDAQ)
- 遺伝子検査、タンパク質・免疫検査を支援する各種自動化装置を開発・製造。
その多くを、顧客先ブランド製品(OEM)として、世界市場に輸出
- 主要製品：自動化装置、プラスチック消耗品、スペアパーツ、試薬
- 主要顧客：Roche、Qiagen、Life Technologies、三菱化学メディエンス、ABBOTT

PSSグループの組織・事業展開図



PSSの開発・販売製品

装置・システム

DNA自動抽出装置
前処理装置

PSSブランド製品



OEM向け製品



タンパク質自動精製装置、他

CellFree Sciences

全自動解析装置
(性能評価中)

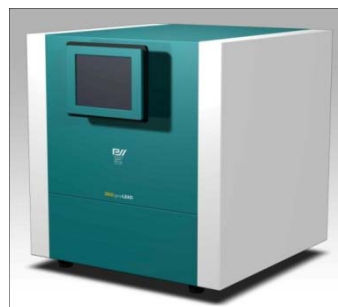
POCT免疫診断装置

三菱化学メディエンス株式会社



プラスチック・消耗品

試薬



PSS技術の実用例

(1) NAT検査での実績:PSSマグトレーション+ロッシュPCR

1999年日赤が世界に先駆けて導入、
年間600万件にのぼる献血検体の
HIV、HCV、HBV同時スクリーニング。
(PSS製装置の稼働は終了)



(2) 新型インフルエンザでの遺伝子診断

2009年～2010年の新型インフルエンザ (swine flu)
の流行に際し、WHOはウィルス検査のガイドライン
を設定したが、これにPSSのOEM製品が明示。



CDC protocol of realtime RTPCR for influenza A(H1N1)

28 April 2009
revision 1 (30 April 2009)
revision 2 (6 October 2009)

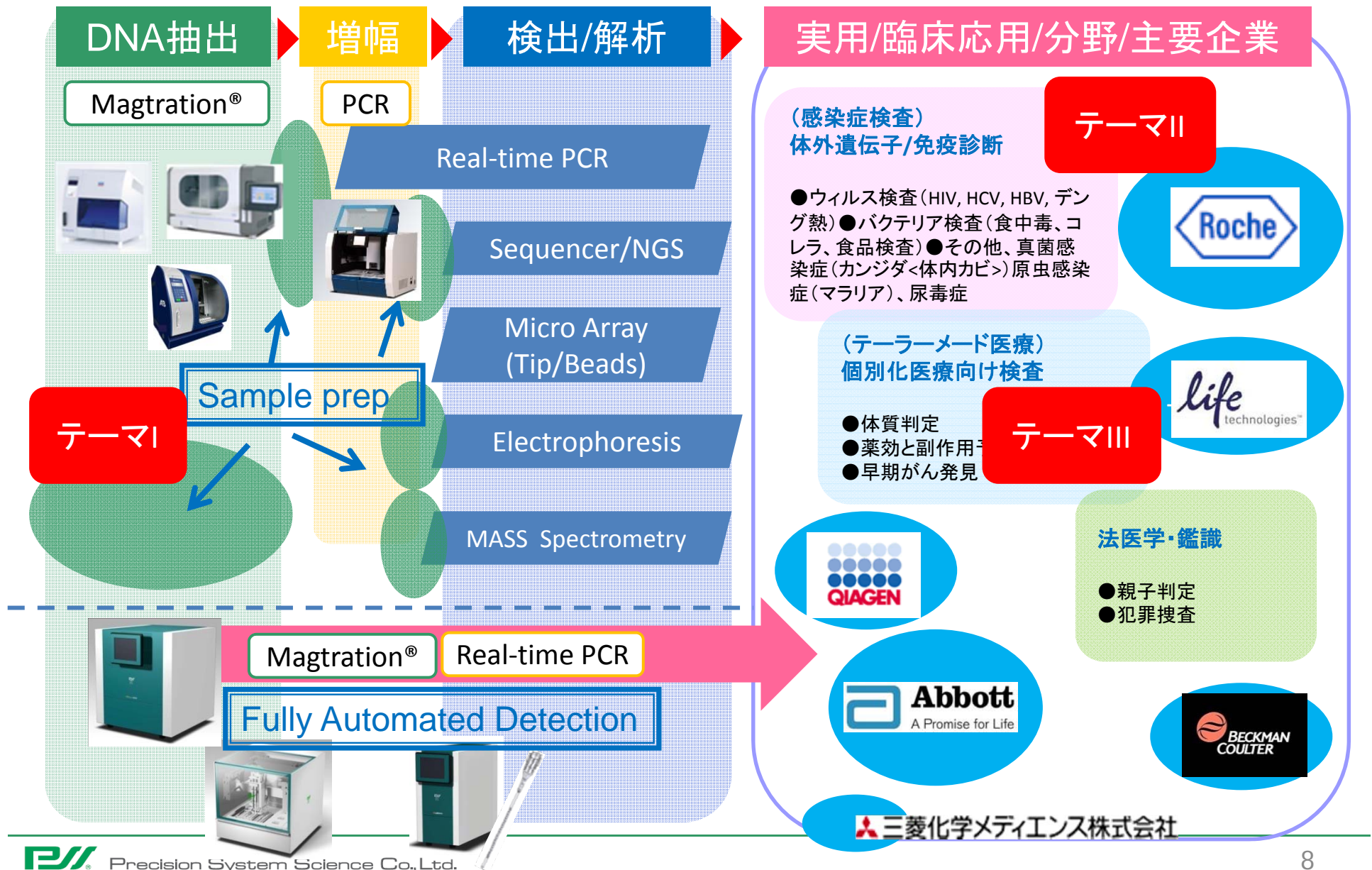
(3) 警察科学捜査におけるDNA鑑定

累犯の確率が高いといわれる性犯罪捜査などで、遺伝子解析の導入が、
世界的に進んでいる。(日本では、足利事件も契機となる)
また、東日本大震災での身元特定に応用される。

Contents

- I. 会社概要
- II. PSSのめざす事業領域と施策
(技術、装置、展開)**
- III. 当期上期業績概況
(2011年7月～12月)

分子診断技術とPSS事業分野イメージ



第27期以降におけるPSS開発・製品化課題

(サンプルプレパレーション) DNA領域での拡大

- ①次世代シーケンサー前処理
- ②エピジェネティクス解析向け前処理
- ③その他の検出装置前処理、大容量抽出他

テーマI

(感染症検査) 体外遺伝子/免疫診断

- ①ウイルス検査(HIV, HCV, HBV, デング熱)
- ②細菌検査(食中毒、コレラ、食品検査)
- ③その他、真菌感染症(カンジダ<体内カビ>)
原虫感染症(マラリア)、尿毒症

テーマII

(テーラーメイド医療) 個別化医療向け検査

- ①体質判定
- ②薬効と副作用予測
- ③早期がん発見

テーマIII

2012年3月26日プレス発表

- 世界的ヘルスケア企業Abbott 傘下のIbis Biosciences, Inc.との間で、同社の自動細菌検査システム「PLEX-ID」向けに、全自動前処理装置の開発製造契約を締結。
- 生化学、免疫診断市場で圧倒的な存在感を示す、Abbottの遺伝子領域への進出を支援。
- これにより、PSSは分子診断市場における主要プレーヤーをほぼ網羅することになった。

- シリンジを使用しない「ベローズチップ」搭載により、装置の大幅なコストダウンを実現。
- 大・中・小のチップサイズを取りかえることで、大容量から中容量まで、柔軟に利用可能。
- 他のPSS装置との組み合わせにより、幅広い前処理ニーズに対応できる。



臨床応用に向けた全自動解析装置3機種

geneLEAD®

テーマII

テーマIII



抽出 増幅 検出/測定

Magtration® + リアルタイムPCR

感染症検査

- インフルエンザウイルス
- 肝炎ウイルス検査
- 血液スクリーニング
- HPV

テーラード医療

- 肥満
- 薬剤副作用
- 投与量予測
- mRNAプロファイル

geneTYPIST™

テーマIII



抽出 増幅 検出/測定

Magtration® + PCR + BIST®

食品検査

- 種特定: マグロ・トリ等
- コメの種特定
- 組換え遺伝子検査
- 肥満
- 薬剤副作用
- 投与量予測
- mRNAプロファイル

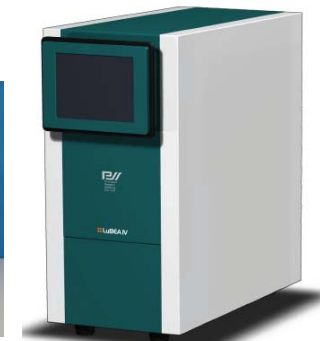
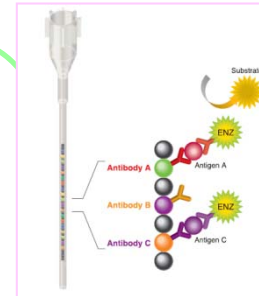
テーラード医療

感染症検査

- インフルエンザウイルス
- 肝炎ウイルス検査
- 血液スクリーニング
- HPV

LuBEA®

テーマII



反応 検出/測定

BIST®技術: 1mmφビーズ、多項目同時解析

臨床検査

- がん発現タンパク・プロファイル
- ホルモン

食品安全検査

- 表示食物アレルギー
- 食中毒
- 食材判定

小動物検査

- がん
- 甲状腺ホルモン
- 腎機能

小型分析装置 SpeLIA

全自動

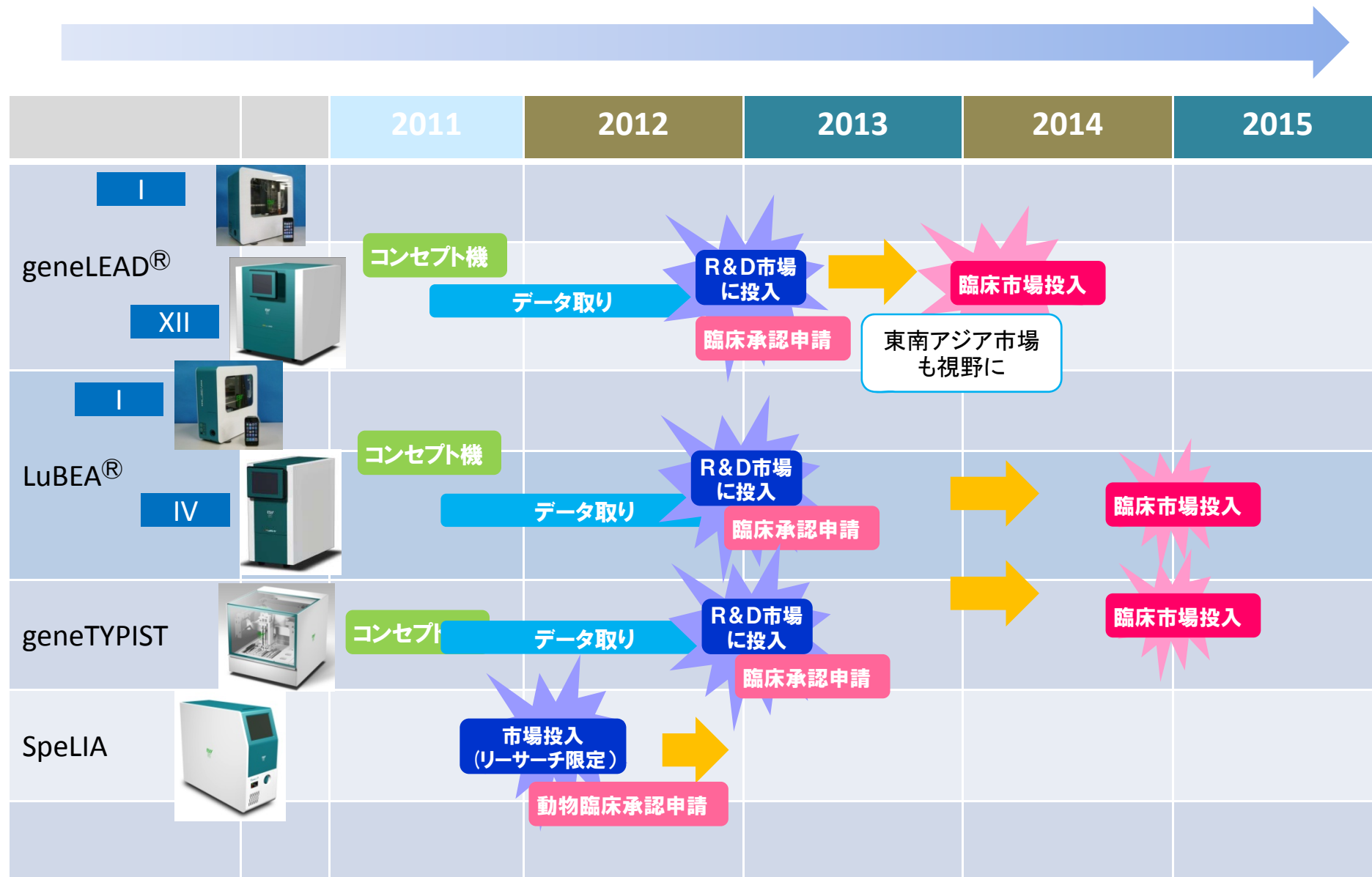
多項目



1. 多項目または多検体同時処理
2. 1連ノズルで、4検体または4項目まで
3. プレパック試薬
4. 分光光度計搭載
5. 測定波長 (340-750 nm)
6. 処理時間: 約10分(1テスト当たり)
7. 大きさ: W17cm x D 42 cm x H 38 cm

免疫、生化学検査に対応
・免疫検査(ラテックス凝集法)
・生化学検査

全自動解析装置の市場展開工程



Contents

- I. 会社概要
- II. PSSのめざす事業領域と施策
(技術、装置、展開)
- III. 当期上期業績概況
(2011年7月～12月)**

第27期 第2四半期決算概況

- (回復基調) 装置出荷台数は、半期ベースで過去2位の574台。OEM先の過剰在庫問題が解消しつつあり、キアゲン向け販売が前期比24.6%増と回復。一方、ロッシュは調整が長引いている。
- (為替) 円高がさらに進行し最高水準に。6カ月間の平均レートは、ユーロ107.23円、ドル77.63円。ただし、売上総利益率は、37.7%と比較的高水準を確保。
- (見通しの修正) 一部OEM先販売の回復の遅れ、円高等の要因により業績予想の下方修正。
- (新事業分野での展開)
 - ① Abbott新規開発受注(3月発表)、②開発・製造事業進捗、③全自動解析装置の進捗、その他

- イタリアDiaSorinグループのBiotorin社向けNAT検査用診断装置開発は、計画通りに進捗。同装置は栄研化学(株)が開発したLAMP法を搭載し、感染症などの臨床診断向けに開発。Biotorin社は、2012年後半での市場投入を予定。
- 香港Hai Kang Life社向け遺伝子診断装置開発もほぼ完了。同装置はHai Kang Life社の検出技術を搭載した、感染症市場向けの小型遺伝子診断装置。

27期下期以降の事業展開

- 効率的で精度の高い検出・診断を実現するため、それぞれの検出・診断技術向けsample prepの重要性が、一層高まっている。

➡ ・PSSには、実績のあるMagtrationと自動化技術があり、市場ニーズを的確に把握し、対応することで、存在感をさらに高めることができる。

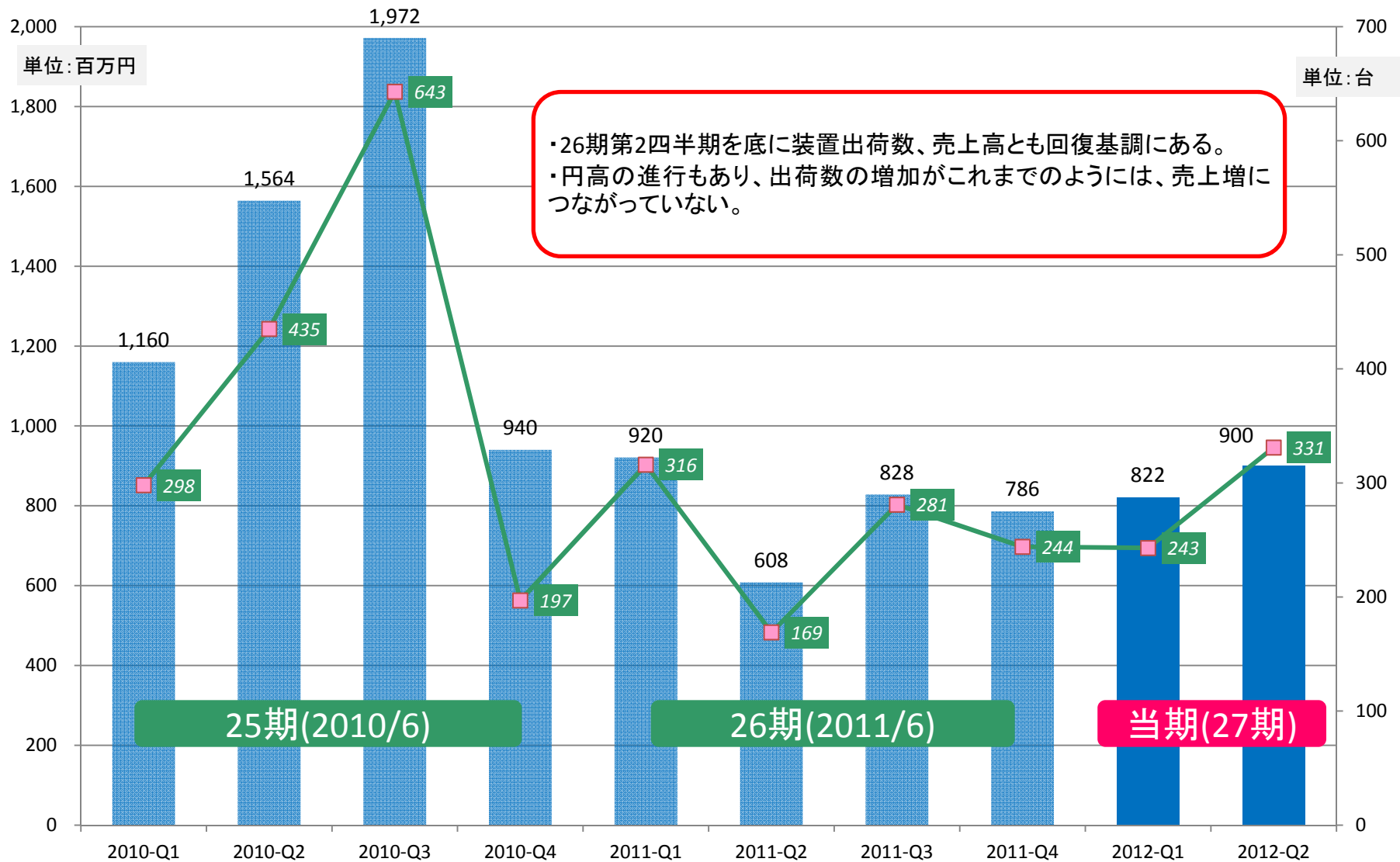
- 診断領域で確かな自動化への潮流

➡ ・geneLEAD等の全自動解析装置を早期に（2012年末）R&D市場へ投入
・試薬の本格開発・製造に向けた体制を構築

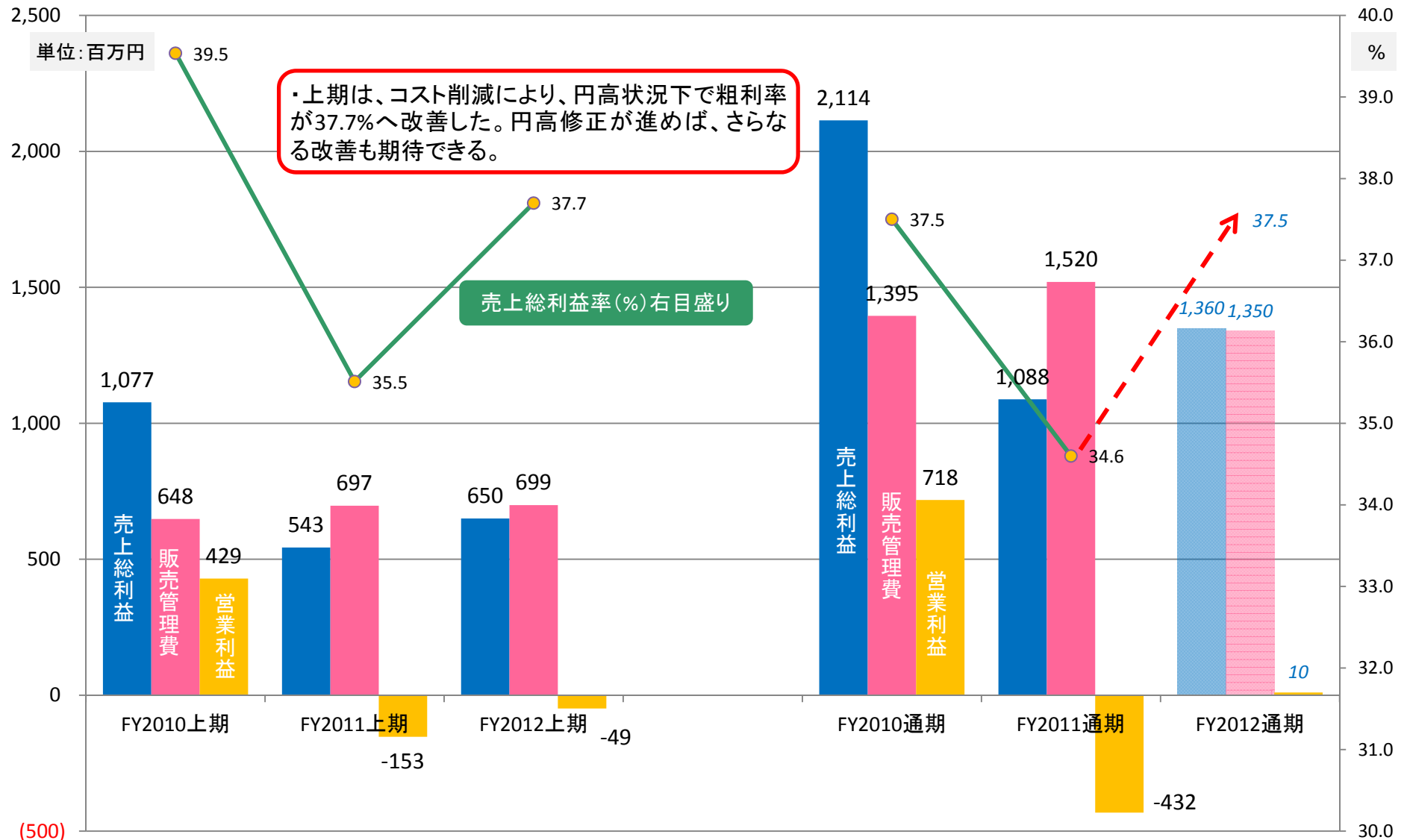
売上高/装置出荷数(上期・通期)



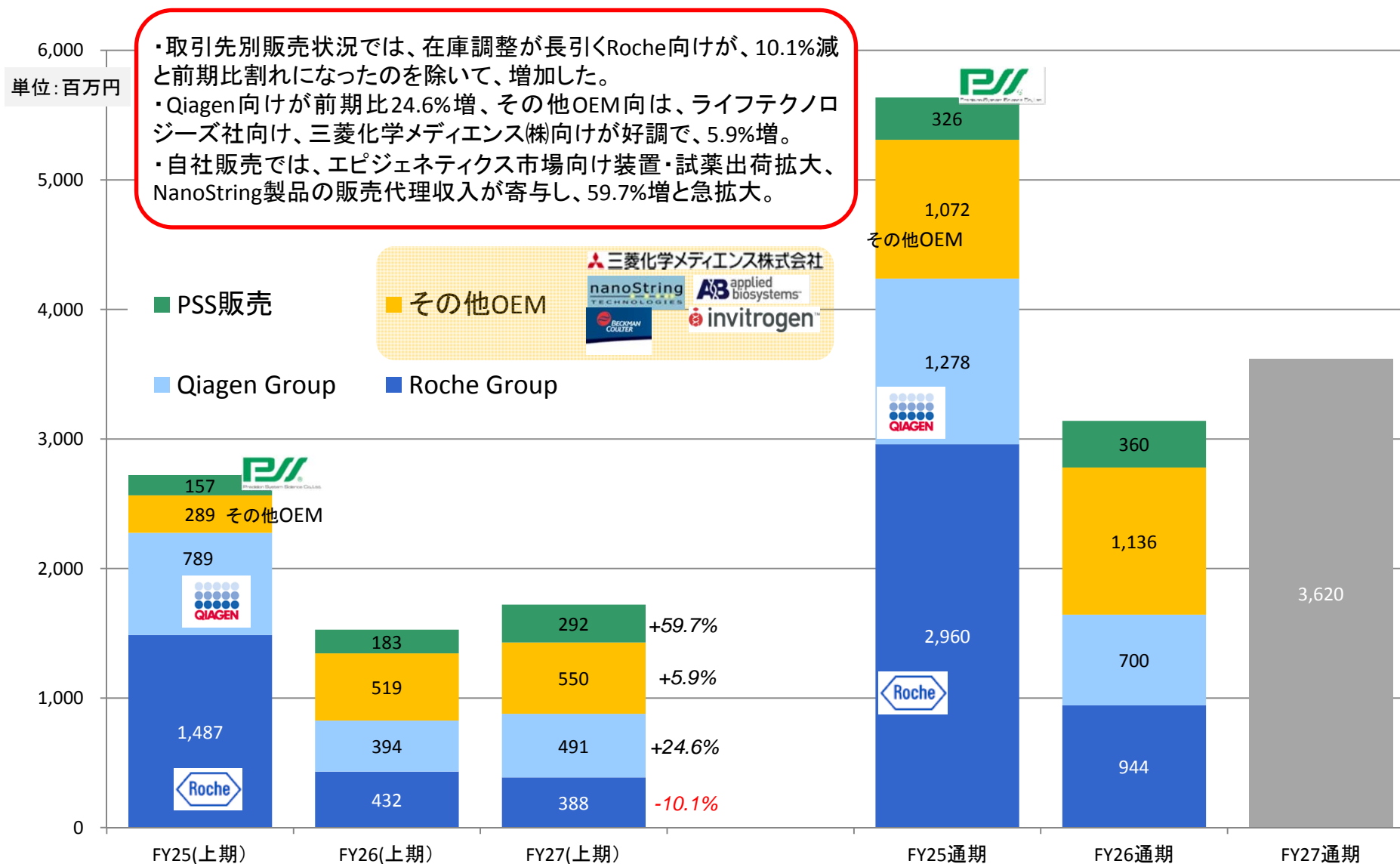
四半期業績推移(売上高/装置出荷数)



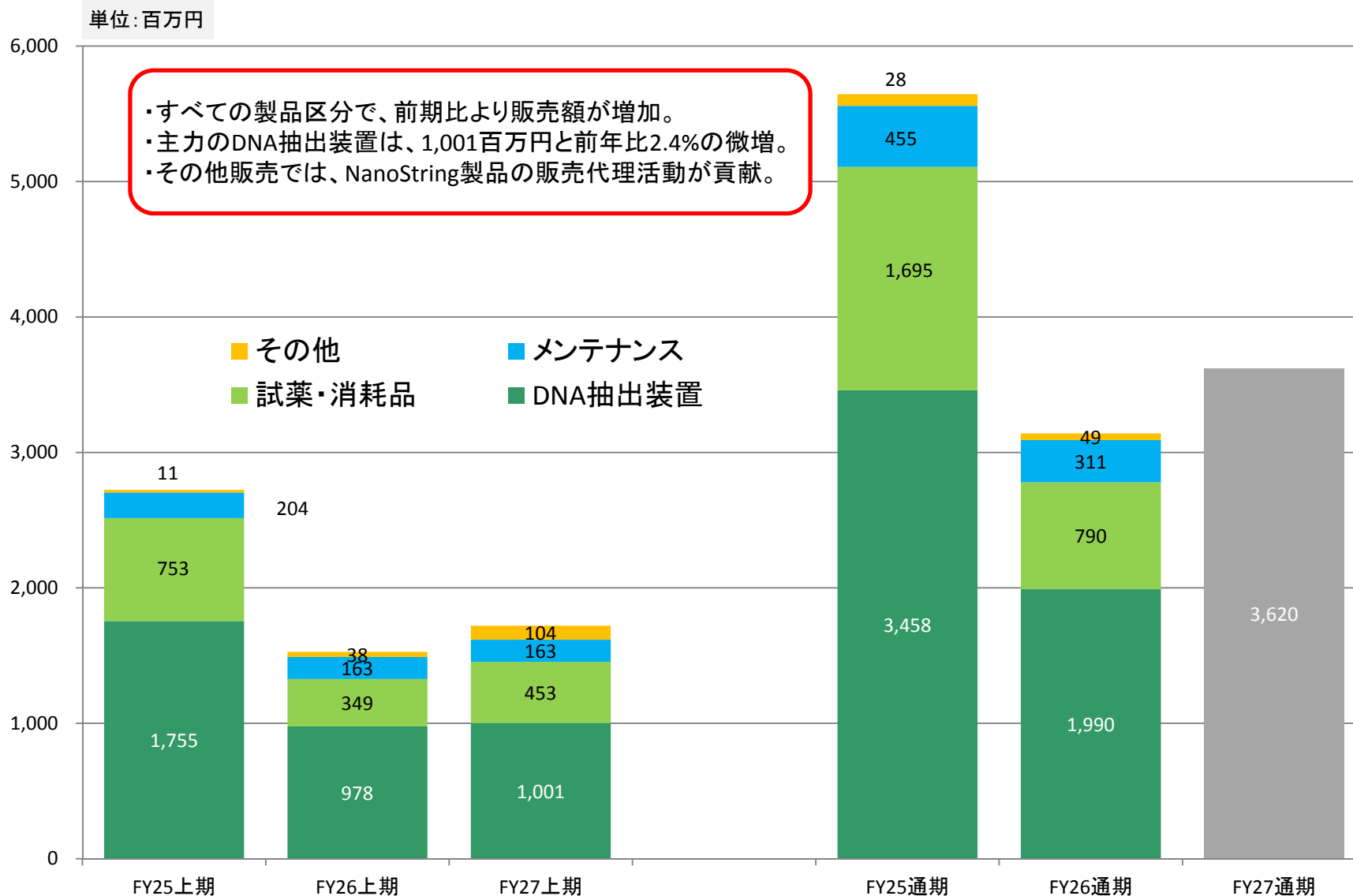
売上総利益・販売管理費・営業利益



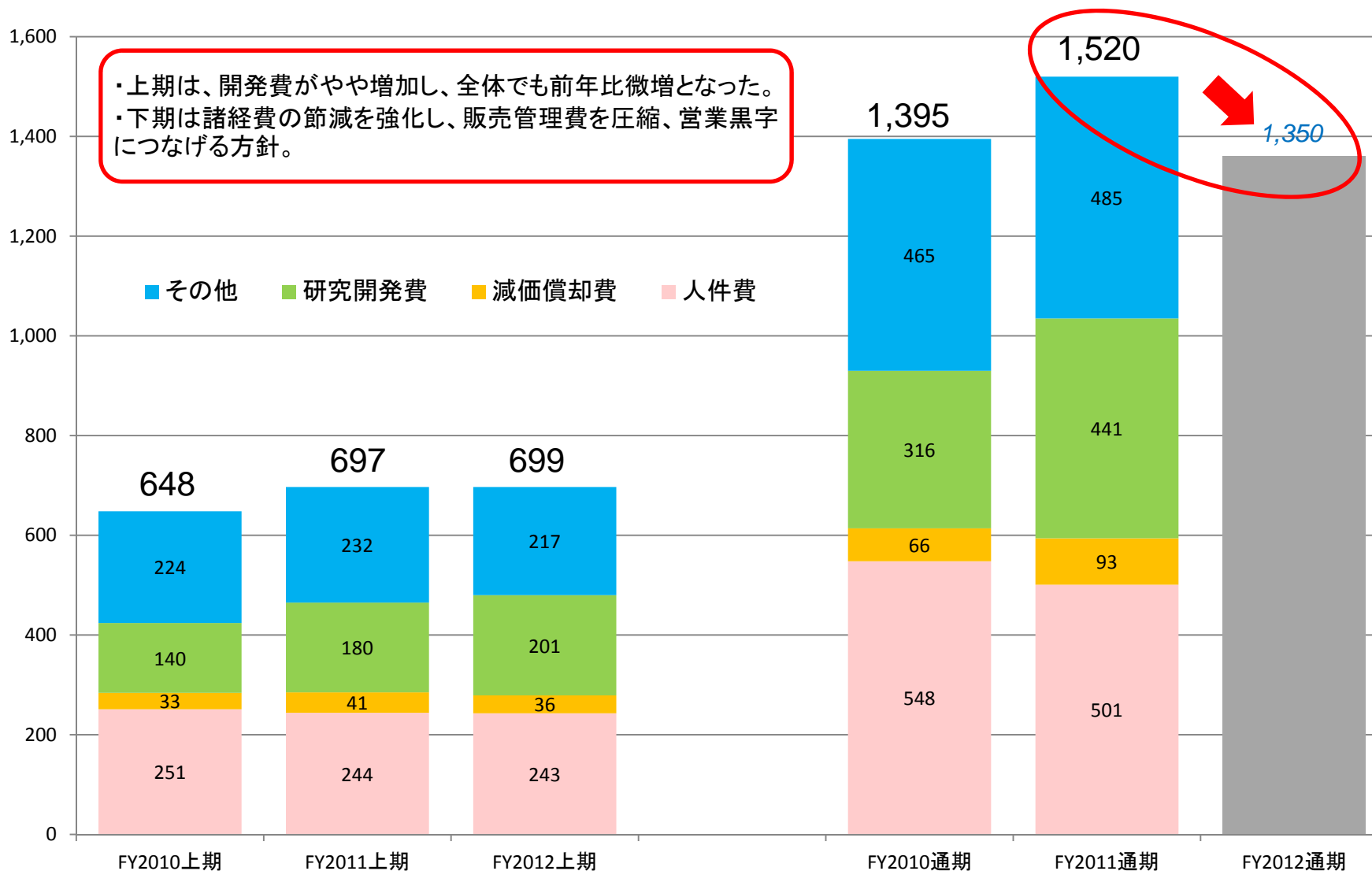
取引先別販売状況(上期・通期)



製品別販売状況(上期/通期)



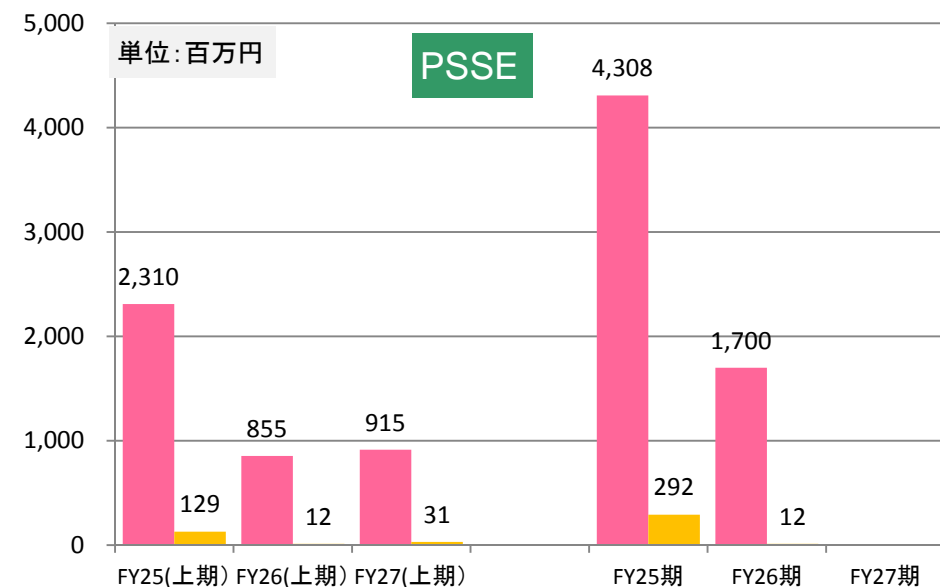
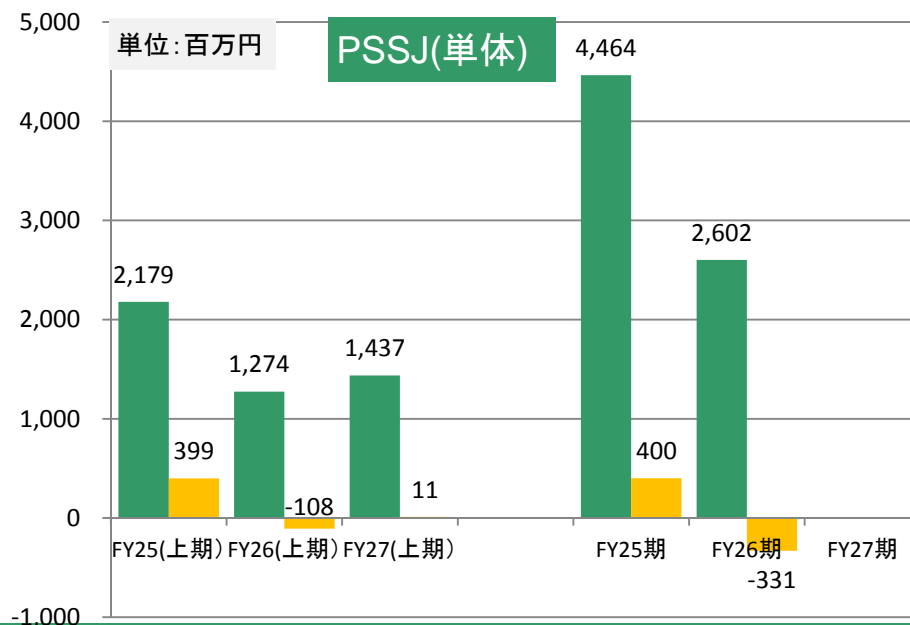
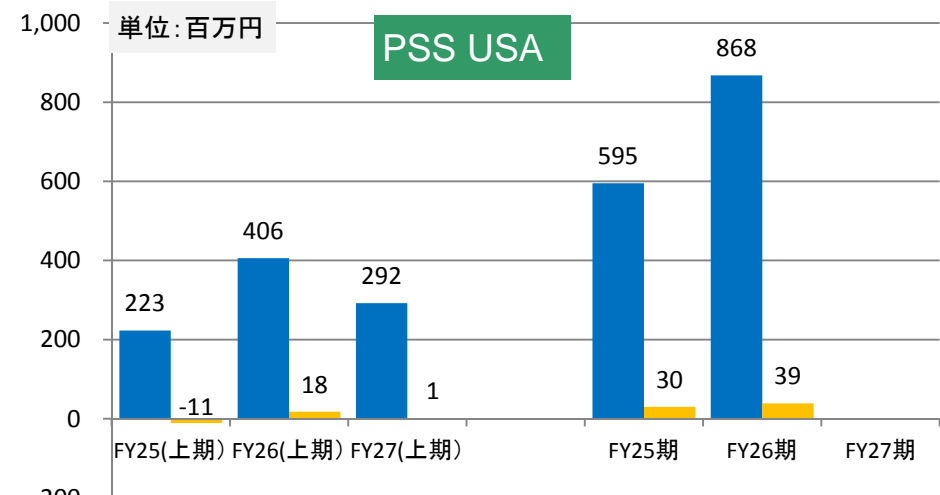
販売管理費内訳



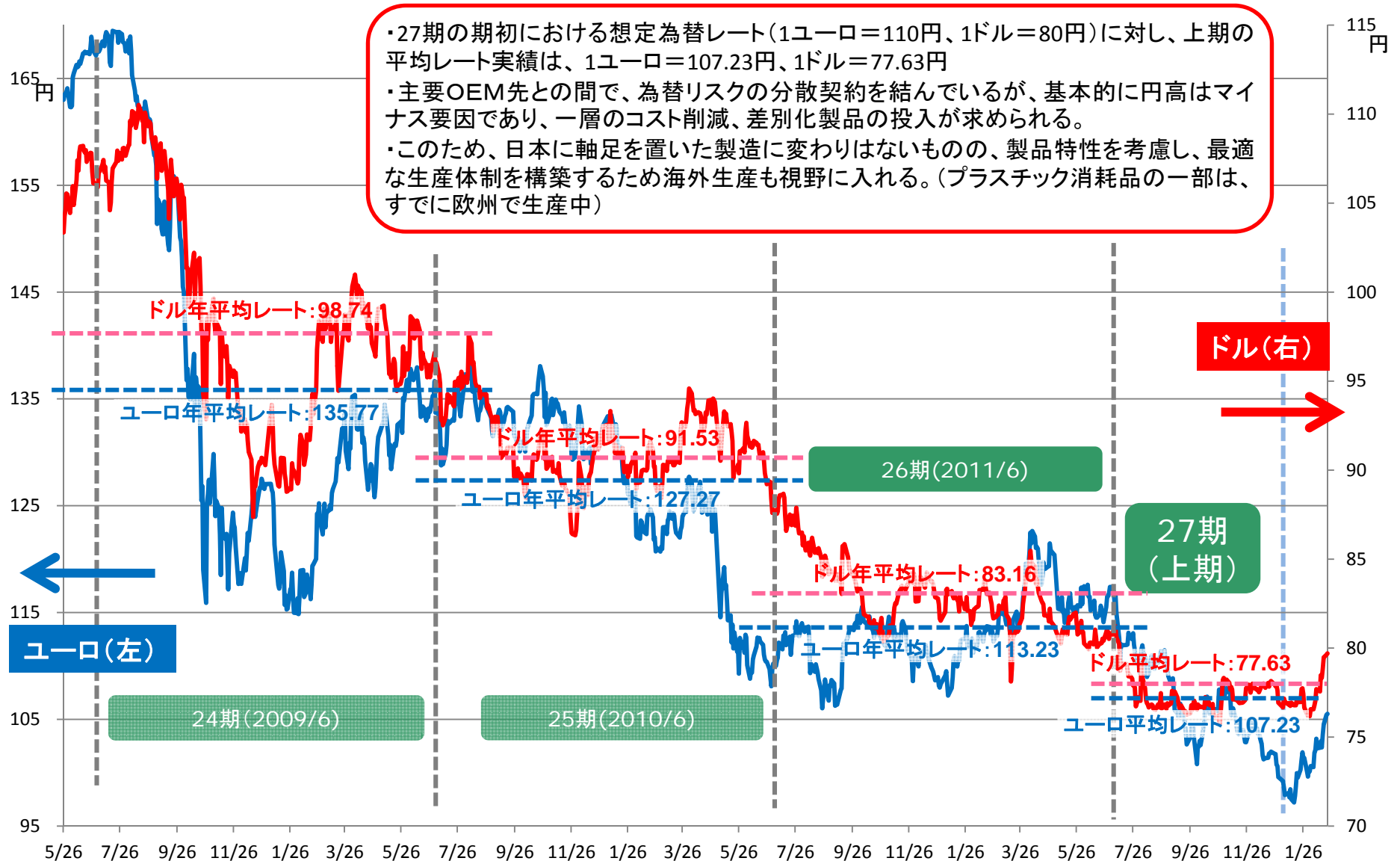
PSS 主要3社実績(売上高/営業利益)

・PSSJ、PSSE業績に回復の兆しが見られる。前期業績が急拡大したPSSUSAは、やや低調。3社ともわずかに、営業利益を確保。PSSJでは、NanoString製品販売も寄与。

・上期、PSSUSAは、一部OEM先販売が不振で、売上、営業利益とも前期比割れとなったが、下期には新規開発案件の獲得が期待されている。



ユーロ/円、ドル/円為替推移



第2四半期業績と通期業績見通し

第2四半期業績（2011年7月1日～2011年12月31日）

単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2012年6月期第2四半期(A)	1,722	-49	-79	-95	-1,044.45円
2011年6月期第2四半期(B)	1,529	-153	-162	-158	-1,738.79円
増減率(B)/(A)	+12.6%	----	----	----	----
期初業績予想(2011年8月12日)	1,960	20	15	5	54.79円

通期業績（2011年7月1日～2012年6月30日）予想

単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2012年2月7日予想修正(A)	3,620	10	-30	-60	-657.46円
前期(2011年6月期)(B)	3,142	-432	-424	-366	-4,017.95円
増減率(B)/(A)	+15.2%	----	----	----	----
期初業績予想(2011年8月12日)	4,000	40	30	10	109.58円

■下期の為替レートは、1ユーロ＝100円、1ドル＝77円で算定

本日は、お忙しいところ、PSS事業概要の説明機会を頂きまして、誠に、ありがとうございます。今後とも、ご理解、ご支援をたまわりますよう、なにとぞ、よろしく、お願い申し上げます。

なお、本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

2012年4月21日
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
[URL : www.pss.co.jp](http://www.pss.co.jp)

(お問い合わせは、IR・社長室まで)
電話：047-303-4800
メール：ir@pss.co.jp